

授業科目	子どもの健康と安全【講義】	開講時期	後期
担当教員	原田 博子	単位	2
授業の目的と概要	保育における保健的観点を理解した上で、保育士としての具体的な対応ができるようになることを目的としています。グループワークを通して、具体的な対応について考えます。また、新生児モデル人形や2歳児モデル人形などを使用し、テーマ別に技術を習得します。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における保健的観点を踏まえた保健環境や援助について理解する。</li> <li>2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。</li> <li>3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>4. 保育における感染症対策について、具体的に理解する。</li> <li>5. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は看護・助産師としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション/子どもの健康と保育環境	他職種「保育所看護師」の職域について調べる	
第2回	体調変化の際の個別対応/体温測定・呼吸測定・脈拍測定	体温測定ワークシートへの考察記入	
第3回	衛生管理/手洗い	手洗いワークシートへの考察記入	
第4回	事故防止及び安全対策/チャイルドビジョン作成	チャイルドビジョン体験ワークシートに考察記入	
第5回	保育における災害への備え①グループワーク	課題：教科書 p. 33 (課題9)	
第6回	保育における災害への備え①グループワーク発表	教科書p. 29 例4 を使用し、危険予測を各自で行う	
第7回	体調不良時の対応/傷害時の応急処置/薬の投薬	課題：教科書 p. 45	
第8回	心肺蘇生法	心肺蘇生法体験ワークシートに相殺記入	
第9回	保育所における感染対策	感染症予防のため保護者に伝えておくことをまとめる	
第10回	乳児の抱き方	抱き方ワークシートに考察を記入	
第11回	衣服の着せ方	衣服の着せ方ワークシートに考察を記入	
第12回	身体計測	身体計測ワークシートに考察を記入	
第13回	おむつ交換	おむつ交換ワークシートに考察を記入	
第14回	授乳	授乳ワークシートに考察を記入	
第15回	沐浴	感想用紙に15回の総括を記入	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	60%		
レポート	15%		
小テスト等	0%		
成果発表	10%		
受講態度他	15%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度が評価の対象になっています。グループ活動が主ですので、その参加態度も評価します。事情がある場合はお知らせください。		
教科書	小林美由紀 『子どもの健康と安全演習ノート』 診断と治療社		
指定図書	なし		
参考図書	あすみ福祉会 『見る・考える・創りだす乳児保育』 萌文書林		
オフィスアワー	月曜日4限	メールアドレス	

<b>授業科目</b>	子どもの保健【講義】	<b>開講時期</b>	前期
<b>担当教員</b>	原田 博子	<b>単位</b>	2
<b>授業の目的と概要</b>	本講義では子どもの身体・発達の特徴についての基本的知識を身につけ、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について学ぶことを目的とする。小児期によく遭遇する疾病や障害を解説し、その予防法や対応の仕方について講義するとともに、保育における環境や衛生管理ならびに安全管理についての学習を促す。さらに、保育所だけではなく施設における子どもの心身の健康および安全対策についても授業する。授業形態は講義を中心とする。		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</li> <li>2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。</li> <li>3. 子どもの心身の健康状態ととの把握方法について理解する。</li> <li>4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。</li> </ol>		
<b>この授業が目的としてDPや関連する科目など</b>	幼(3) - ②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は看護・助産師としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
<b>授業計画</b>	<b>授業内容</b>	<b>授業外学修など</b>	
第1回	保健活動の意義と目的	課題 「インクルーシブ保育」について調べ、わかったことを書く	
第2回	子どもの出生と母子保健の意義	課題 「合計特殊出生率」について用語の説明を書く	
第3回	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	課題 「世界の各国における乳児死亡率」について調べ、わかったことを書く	
第4回	子どもの身体発育と運動機能の発達	課題 「サーカディアンリズム」について用語の説明を書く	
第5回	生理機能の発達と生活習慣	課題 「保健師」「ソーシャルワーカー」はどのような資格なのか	
第6回	地域における保健活動	課題 「子どもの平熱」について調べ、わかったことを書く	
第7回	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握	課題 「細菌」と「ウイルス」の違いについて調べ、わかったことを書く	
第8回	子どもの免疫の発達と感染症の特徴	課題 「病原体の感染経路」にはどのようなものがあるかについて	
第9回	感染症の予防および適切な対応	課題 「救急車を呼ぶかどうか迷ったとき」どうすればよいか	
第10回	救急疾患の特徴と適切な対応	課題 「アナフィラキシー」について調べ、わかったことを書く	
第11回	新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応	課題 「アレルギー」について用語の説明を書く	
第12回	アレルギー疾患の特徴と適切な対応	課題 「慢性疾患」とはどのようなものか調べ、わかったことを書く	
第13回	慢性疾患の特徴と適切な対応	課題 「病児保育事業」とはどのようなものか調べ、わかったことを書く	
第14回	保護者との情報共有と家族の支援	課題 「保健所」とはどんなところか調べ、わかったことを書く	
第15回	子どもの健康診断と関連機関との連携	最終課題 【ワークシート】提出 別途説明筑女ネット科目にあり	
<b>成績評価</b>	<b>割合（％）、種類・評価基準など</b>		
定期試験	なし		
レポート	第15回目最終課題提出 【ワークシート：Wordの指定用紙あり】8/3～8/10の間に筑女ネットにて提出40%		
小テスト等	第1回から第14回 授業外学修課題提出【Forms使用】60%		
成果発表	なし		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	*《各回の課題について》第1回から第14回までは筑女ネット科目においてある課題提出用Formsに書いてください。提出期限：時間割の授業日から2週間以内に提出すること。（例：第1回4/27の課題は5/10締め切りです。）200字以内で書いてください。 *《最終課題について》第1回から第14回までの内容でわからないことを各自で調べ、わかったことを記載する【ワークシート】を筑女ネットにアップしています。毎回記入をしておいてください。それを最終課題とし、第15回目に筑女ネット科目のところから提出します。200字以内で書いてください。		
<b>教科書</b>	小林美由紀 『子どもの保健テキスト』 診断と治療社		
<b>指定図書</b>	なし		
<b>参考図書</b>	渡辺博 『子どもの保健 改訂第3版新装版』 中山書店		
<b>オフィスアワー</b>	月曜日4限目	<b>メールアドレス</b>	

<b>授業科目</b>	肢体不自由教育【講義】		<b>開講時期</b>	後期
<b>担当教員</b>	稲田 八穂		<b>単位</b>	2
<b>授業の目的と概要</b>	近年、障害の重複化、多様化を受けて一人一人のニーズに応じた教育的配慮が強く求められている。そのような社会的な情勢を視野に入れ、肢体不自由児・者を始めとする知的障害者の教育について基礎的・基本的な知識を身に付けることを目的とする。肢体・知的障害者の医学的・心理的特徴を理解するとともに、教育課程の編成や指導、支援の工夫について考えを深めていくことができるようにする。また、自立活動に向け、専門機関との連携や情報機器の活用等も考慮した個別の支援計画や個別の教育指導計画の作成を目的とする。			
<b>到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由児・者、知的障害者の歴史的過程と現状・課題を説明することができる。</li> <li>・肢体不自由児・者、知的障害者の基本原理や教育課程について説明することができる。</li> <li>・肢体不自由児・者への指導や支援のあり方について考えを述べるができる。</li> <li>・肢体不自由児・者教育における自立活動や他機関との関係を説明することができる。</li> </ul>			
<b>この授業が目的としているDPや関連する科目など</b>	<p>心(3)②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
<b>授業計画</b>	<b>授業内容</b>	<b>授業外学修など</b>		
第1回	オリエンテーション 「肢体不自由」の用語の概念について	復習	「肢体不自由」についてまとめ	
第2回	我が国における肢体不自由教育の発足と発展の歴史について	予習 復習	配布資料を読んでおく 肢体不自由教育の歴史をまとめ	
第3回	肢体不自由児・者が学ぶ様々な教育の場について	予習 復習	配布資料を読んでおく 教育の場についてまとめる	
第4回	肢体不自由児・者の医学的側面（骨、筋）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 運動発達の仕組みをまとめる	
第5回	肢体不自由児・者の医学的側面（脳性麻痺、二分脊椎）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 脳性疾患についてまとめる	
第6回	肢体不自由児・者の心理学的側面（発達、障害特性）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 心理学的側面についてまとめる	
第7回	肢体不自由児における教育課程・指導法（乳幼児期）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 乳幼児期の指導についてまとめ	
第8回	肢体不自由児における教育課程・指導法（小学校期）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 小学校期の指導についてまとめ	
第9回	肢体不自由者における教育課程・指導法（中学校期）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 中学校期の指導についてまとめ	
第10回	肢体不自由者における教育課程・指導法（高等学校期）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 高等学校期の指導についてまと	
第11回	教科指導（学習上の困難と困難への対応）について	予習 復習	配布資料を読んでおく 教科指導法についてまとめる	
第12回	重複障害について（指導法）	予習 復習	配布資料を読んでおく 重複障害についてまとめる	
第13回	動作法について（体と心、身体の動きを通じた指導法）	予習 復習	配布資料を読んでおく 動作法についてまとめる	
第14回	肢体不自由児・者の自立活動の必要性について（指導計画作成）	予習 復習	配布資料を読んでおく 個別の教育指導計画を作成する	
第15回	専門機関との連携、保護者の支援について	予習 復習	支援についてグループ討議 支援のありかたについてまとめる	
<b>成績評価</b>	<b>割合（％）、種類・評価基準など</b>			
定期試験	60％ 定期試験			
レポート	20％ ミニレポート1回			
小テスト等	なし			
成果発表	10％ 個別の教育指導計画			
受講態度他	10％ グループ討議の様子			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布しますので、ファイルを準備してください。			
<b>教科書</b>	『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省			
<b>指定図書</b>	特になし			
<b>参考図書</b>	日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』慶応義塾出版会 (文部科学省)『特別支援学校教育要領・学習指導要領』海文堂出版			
<b>オフィスアワー</b>	水曜日、木曜日午後	<b>メールアドレス</b>		

授業科目	女性心理学【講義】	開講時期	前期
担当教員	洪田 登美子	単位	2
授業の目的と概要	<p>人生80余年という長寿命化と少子化が急速に進む現代において、女性の性役割観や価値観が変容し、女性の生き方は多様化しています。女性が生き方を選択できるようになったということができますが、どのようなライフコースを選んでも、女性は男性以上に何度も人生の岐路に立たされ、選択を迫られることとなります。</p> <p>この授業は、現代女性の生き方に影響を与えている生物学的要因、文化・社会的要因、心理的要因について考察します。その中で自分自身に向き合い、現代社会に生きる女性として自分らしい将来設計をすることを目的とします。</p>		
到達目標	<p>1. 女性の生き方や女性特有の心理臨床の問題に影響を与えている文化・社会的要因、心理的要因、生物学的要因について説明することができる。</p> <p>2. 女性の多様なライフコースとそれぞれのコースに想定される心理的な危機について具体的に述べるができる。</p> <p>3. ワーク・ライフ・バランスについて自分の考えを述べるができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」</p> <p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>幼 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：女性の発達とライフサイクル	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第2回	女性らしくとは	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第3回	思春期における心理臨床：女性と食行動	女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第4回	女性のライフコースとキャリア発達	厚生労働省HP「女子大学生就活ガイド」を調べる	
第5回	女性のキャリア発達とその関連要因	自分の経験をもとに考察するレポートを作成する	
第6回	現代の結婚事情	レポートを作成する	
第7回	親となるプロセス①：妊娠・出産に関わる意思決定	身近な女性から妊娠・出産にまつわる話を聞く	
第8回	親となるプロセス②：現代の子育て事情	子育て支援の地域資源について調べる	
第9回	ライフコースの調整とケア役割	どのような働き方をしたいか自分の考えをまとめる	
第10回	ケア・テイカーとしての女性	家庭を維持していくために誰がどのような役割を果たしているのか考える	
第11回	中年期女性の選択	アイデンティティの発達について復習しておく	
第12回	支え、支えられる中高年期	コンボイについて調べる	
第13回	うつと女性：なぜ性差があるのか	講義内容の復習	
第14回	ジェンダーの問題としてDVを考える	居住地域の男女共同参画センターについて調べる	
第15回	国際比較から日本の女性を考える	ジェンダーギャップ指数について調べる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20% 中間レポート：授業の内容に関連した新聞・雑誌の記事を用いたレポート 1500字程度 30% 学期末レポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	50% 毎回のショートライティング（学習内容の確認／意見） フォーラムへの質問のうち、受講者の学びに貢献する良い質問を評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	当たり前と思っていたことが、実は当たり前ではなく、自分が気づいていなかったジェンダーの問題かもしれません。漠然と聞くのではなく、将来の自分や身近な女性をイメージし、自己関与しながら受講してください。授業中のスマホ操作は厳禁です。		
教科書	毎回資料を配布する		
指定図書	使用しない		
参考図書	肥田幸子・太田和佐・堀篤実・清水紀子・大見サキエ（著）『女性心理学 一現代を女性として生きるために』 唯書書房 園田雅代・平木典子・下山晴彦（著）『女性の発達臨床心理学』金剛出版		
オフィスアワー	金曜日昼休み・4限 遠隔授業中は授業内容に関してはフォーラムで、それ以外はメールにて。	メールアドレス	

授業科目	心理学概論Ⅰ【講義】	開講時期	前期
担当教員	榊 祐子	単位	2
授業の目的と概要	人間の多面的理解に貢献してきた心理学の諸領域について概観し、特に、人間の発達や性格、社会的行動に関する基礎的知識の習得を目指す。 それぞれの領域における重要な事項を選択し、日常的なテーマなども取り入れながら、心理学概論Ⅱとあわせて、心理学全般にわたる基本概念を学ぶ。単なる知識の獲得にとどまらず、自分自身の性格や行動、日常生活における対人関係などと関連付けながら理解を深めていく。		
到達目標	①人間の発達段階や理論について比較し、それぞれの特徴を具体的に述べる事が出来る ②性格の特性や分類を説明し、自らの性格と関連づけて述べる事が出来る。 ③集団における行動の特徴について説明することが出来る ④日常生活での経験やこれまでの体験を発達、社会、人格などの視点から解釈し説明することが出来る		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 心 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	心理学とは①：心理学の起源、歴史	心理学の歴史についての復習	
第2回	心理学とは②：心理学の諸領域と関連領域	心理学の領域と成果についての復習	
第3回	発達①：人間の発達段階とは	発達段階の特徴についての復習	
第4回	発達①：発達段階の理論	発達理論の整理と復習	
第5回	発達③：言語の発達	言語の発達についての復習	
第6回	発達④：社会性の発達	家族や友人関係の発達についての復習	
第7回	まとめ①：心理学の歴史、発達	心理学の歴史と発達心理学の整理	
第8回	性格①：人格の特性について	人格のとらえ方の復習	
第9回	性格②：性格の分類	人格理論の復習	
第10回	性格③：性格の形成	性格形成の要因についての復習	
第11回	性格④：集団と性格	集団が正確に与える影響についての復習	
第12回	社会①：集団における個人の行動	集団における性格と行動についての復習	
第13回	社会②：個人と対人関係	個人と社会的知覚についての復習	
第14回	社会③：同調行動について	同調行動の経験についての振り返り	
第15回	まとめ②：人格、社会	人格と社会心理学の振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 歴史、発達、人格、社会の領域からそれぞれテーマを設定し、調べてまとめる 30% まとめ①、②のまとめレポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 授業に関するコメントや講義内容に関するショートレポート		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退席は慎むこと。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスアワー	火曜日 2限	メールアドレス	

授業科目	知的障がい者の教育【講義】	開講時期	後期
担当教員	稲田 八穂	単位	2
授業の目的と概要	知的障がいを中心とした発達障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法がわかる。各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについての理解を深める。 知的障がいを中心とした発達障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法の概説を学んでいく。各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについての理解と深化を 目指していく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害児・者や肢体不自由児・者の教育の歴史や法、現状等について説明できる。</li> <li>・知的障害児・者や肢体不自由児・者の基本的知識、発達特徴について説明できる。</li> <li>・知的障害児・者の多様なニーズに応える指導について説明することができる。</li> <li>・知的障害児・者の自立活動に向けての支援について述べるができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション 知的障害について	復習： 知的障害のイメージ、受講に対する意欲をまとめる	
第2回	知的障害の基礎知識（定義、DSM-IVとDSM-Vの比較を通して）	予習： 配付資料を読む 復習： 復習：DSM-IV、5についてまと	
第3回	知的機能に関する実態把握について（知的機能に関する検査及び実施の留意事項）	予習： 検査の種類を調べる。 復習： 実施の留意点をまとめる。	
第4回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 1（教育的対応の基本）	予習： 学習指導要領を読む。 復習： 障害に応じた教育課程をまとめ	
第5回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 2（特別支援学校における知的障害）	予習： 配付資料を読む 復習： 特別支援学校についてまとめ	
第6回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 3（特別支援学校以外における知的障害）	予習： 配付資料を読む 復習： 特別支援学校以外についてま	
第7回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 4（幼稚部における指導）	予習： 配付資料を読む。 復習： 幼稚部の指導についてまとめ	
第8回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 5（教科の指導）	予習： 配付資料を読む。 復習： 教科の指導についてまとめる。	
第9回	知的障害児・者に応じた教育課程編成 6（教科外の指導）	予習： 配付資料を読む。 復習： 教科外の指導についてまとめ	
第10回	知的障害児・者の教育を支援する情報機器等の活用	予習： 配付資料を読む 復習： 効果的な情報機器の使用を考	
第11回	自立活動に向けての支援	予習： 学習指導要領を読む。 復習： 指導内容、形態について考える。	
第12回	進路指導（キャリア教育）と職業教育	予習： 配付資料を読む。 復習： キャリア教育の必要性をまと	
第13回	個別の支援計画、個別の教育指導計画について	予習： 学習指導要領を読む 復習： 計画の作成の必要性をまとめ	
第14回	事例を通して個別の指導計画の作成	予習： 配付資料を読む 復習： 個別の教育指導計画を完成さ	
第15回	関係機関との連携、保護者の支援	予習： 関係機関について調べる 復習： 保護者の支援についてまとめる。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％		
レポート	なし		
小テスト等	20％（まとめごとに実施）		
成果発表	20％（個別の支援計画を提出）		
受講態度他	10％（グループ討議等）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義が中心ですが、グループ討議に時間を取ります。		
教科書	『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省（他の講義で購入予定）		
指定図書	なし		
参考図書	『特別支援教育の基礎・基本』独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2015)		
オフィスアワー	水曜日、木曜日午後	メールアドレス	

授業科目	特別支援教育論【講義】	開講時期	後期
担当教員	稲田 八穂	単位	2
授業の目的と概要	我が国の特別支援教育は、特殊教育から特別支援教育へ、さらにインクルーシブ教育へと大きな転換期を迎えている。これからの特別支援教育のために、(1) 特殊教育の理念、制度及び展開、(2) 特別支援教育の理念、制度 (3) 特別支援教育の教育課程、各種障害と教育方法、(4) 個別の支援計画・指導計画、自立活動、(5) インクルーシブ教育のシステム構築などについて理解する。 特別支援教育の基礎知識を総合的に講義し、特別支援教育の理念、障害概念、教育制度などを学ぶ、さらに、様々な支援対象児の特性と教育的支援の原則を理解し、個々のニーズ（外国語にルーツをもつ児童生徒・経済的に困難な状況にある児童生徒等）に応じた指導方法を考える。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育の歴史的・基本的な体系を理解することができる。</li> <li>○特別支援教育の対象児の特性を理解し、大まかな指導・支援内容を理解することができる。</li> <li>○多様な特性を有する支援対象児童について、個に応じた支援方法を考えることができる。</li> <li>○インクルーシブ教育の理念について理解し、その概要を説明することができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>初 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は小学校教員としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション・特別支援教育とは どのような障害に対して特別支援が実施されるのか、その理念や概要を知る。	復習：特別支援教育について考える	
第2回	戦前の特殊教育の成立とその制度 戦前までの「特殊教育」について、成立過程の制度・仕組みなどの歴史的概要を理解する	予習：配布資料を読む 復習：「特殊教育」についてまとめる	
第3回	戦後の特殊教育への転換 「特殊教育」から「特別支援教育」へ転換が必要になった理由やその過程を理解する。	予習：配布資料を読む 復習：「特別支援教育」への経緯をま	
第4回	特別支援学校の成立、現状と課題 障害児の教育措置について、学校教育法などをもとに理解する。	予習：配布資料を読む 復習：特別支援学校の課題について	
第5回	障害の理解① 肢体不自由児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 肢体不自由児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。	予習：配布資料を読む 復習：肢体不自由児教育について	
第6回	障害の理解② 知的障害児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 知的障害児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。	予習：配布資料を読む 復習：知的障害児教育について	
第7回	障害の理解③ 視覚障害児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 視覚障害児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。	予習：配布資料を読む 復習：視覚障害児について	
第8回	障害の理解④ 聴覚障害児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 聴覚障害児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。	予習：配布資料を読む 復習：聴覚障害児教育について	
第9回	障害の理解⑤ 病弱児教育（実態把握・評価技法・個別の指導計画） 病弱児の病状や就学の状況を知り、教育的環境整備や指導の工夫について考える。	予習：配布資料を読む 復習：病弱児教育について	
第10回	障害の理解⑥ 発達障害児教育・特別なニーズのある子ども（実態把握・評価技法・個別の指導計画）	予習：配布資料を読む 復習：発達障害児の教育について	
第11回	特別支援学校における校内体制の在り方（自立活動の指導） 障害児を受け入れるために特別支援学校でどのような体制、措置が取られているか理解する	予習：配布資料を読む 復習：特別支援学校の校内体制の在り	
第12回	特別支援学級、普通学級の発達障害児を受け入れる校内体制のあり方（通級による指導も含めて）	予習：配布資料を読む 復習：普通学級の校内支援の在り方	
第13回	保護者支援及び地域・諸機関との連携 諸機関の役割を理解し、保護者を交えた連携をどのようにしていけばいいかを考える。	予習：配布資料を読む 復習：諸機関や保護者との連携の在り	
第14回	インクルーシブ教育の動向と我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築 先進国におけるインクルーシブ教育の動向を受け、我が国のあり方を考える。	予習：配布資料を読む 復習：インクルーシブ教育の動向	
第15回	学習のまとめ これからの時代に求められる特別支援教育 現代の時代背景（母国語や貧困問題等による教育的ニーズ）を踏まえたこれからの教育	予習：配布資料を読む 復習：これからの特別支援教育につい	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	60％		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	30％（グループ活動・発表）		
受講態度他	10％（積極的な意見発表）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	節目のミニ課題、小テストを実施します。（詳細は講義内で予告します。）		
教科書	『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説解説書 総則編』文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説解説書 自立活動編』文部科学省（他の講義で購入予定）		
指定図書	なし		
参考図書	随時提示します		
オフィスアワー	水曜日、木曜日午後	メールアドレス	

授業科目	乳児保育Ⅰ【講義】	開講時期	後期
担当教員	原 陽一郎	単位	2
授業の目的と概要	本講義は保育士資格取得のための必修科目であり、3歳未満児を念頭においた保育について、①その意義・目的・役割を理解する、②多様な場における現状と課題を理解する、③発育発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する、④職員、保護者、地域との連携について理解することが目的である。		
到達目標	①乳児保育の役割について述べることができる。 ②発達の理解とこれに基づいた生活と遊びについて具体的に述べるができる。 ③子育ての実状を理解し、これを基にさまざまな保護者への対応を検討することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼(3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷	保育所保育指針の改定の経緯を読む	
第2回	保育所保育指針のポイントの整理	保育所保育指針「総則」を読む	
第3回	保育所・幼保連携型認定こども園以外の乳児保育	児童福祉法の関連項目を読む	
第4回	現在の子育ての社会的状況と課題	3歳未満の子育てに関する新聞記事などを集める	
第5回	3歳未満児の生活と環境① 脳・身体の発達	指定図書①第3章を読む	
第6回	3歳未満児の生活と環境② 食に関して	テキストの関連箇所を読む	
第7回	3歳未満児の生活と環境③ 睡眠・排泄・衣服	テキストの関連箇所を読む	
第8回	3歳未満児の遊びと環境① おもちゃについて	専門店などでおもちゃの種類などを把握する	
第9回	3歳未満児の遊びと環境② 育ちにおける遊びの特性と環境	テキストの関連箇所を読む	
第10回	3歳未満児の遊びと環境③ 愛着形成を促す遊び	講義で実践したものを覚える、自ら遊びを探す	
第11回	3歳未満児における安全な環境	配布された資料を読む	
第12回	3歳未満児の発育発達の記録と評価	身体発育曲線がどこにあるか調べ、ダウンロードする	
第13回	職員間の連携と協働	テキストの関連箇所を読む	
第14回	保護者との連携と協働	子育ての実状について日常生活の中で観察、把握する	
第15回	保育士に求められているものは何か	これまでの内容で理解できていないことがないか把握する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	あり 60%		
レポート	あり 30%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	発言回数等によって評価する 10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度が評価の対象になっています。事情がある場合はお知らせください。		
教科書	大豆生田啓友・おおえだけいこ 「日本が誇る！いいねいな保育」 小学館 2019		
指定図書	小泉英明 「アインシュタインの逆オメガ」 文藝春秋 2014		
参考図書	明和政子 「ヒトの発達の謎を解く」 ちくま新書 2019 針生悦子 「赤ちゃんはことばをどう学ぶのか」 中公新書ラクレ 2019		
オフィスアワー	水曜日4限	メールアドレス	

授業科目	発達心理学 I 【講義】		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単位	2
授業の目的と概要	発達心理学では受精から死までの一生にわたる発達について学習する。発達心理学 I では胎児期、乳幼児期、児童期までを中心とし、発達について学ぶことを目的とする。認知機能の発達、感情・社会性の発達、自己と他者の関係のあり方など心理学的な視点から学びを深めていく。さらに、発達障害等を含む非定型発達についての基礎的な知識を身につける。また、子どもを理解するための視点や子どもが健やかに成長していくための援助の在り方についても理解を深める。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時期の発達の特徴を説明することが出来る。</li> <li>・認知・感情・社会性・人間関係など諸側面の発達について概観を述べる事が出来る。</li> <li>・子どもの発達と周囲の大人からの働きかけについて述べる事が出来る。</li> <li>・発達障害等を含む非定型発達について説明することが出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	生涯発達心理学とは	教科書はしがき、0章の復習		
第2回	各時期における発達の特徴・発達の理論	教科書1章の復習の準備	復習ワーク①への準備	
第3回	胎児期の発達	教科書2章の復習の準備	復習ワーク①への準備	
第4回	乳幼児期の認知の発達	教科書3章の復習の準備	復習ワーク①への準備	
第5回	コミュニケーションと人間関係の発達 (1) アタッチメントの発達	教科書4章の復習の準備	復習ワーク①への準備	
第6回	コミュニケーションと人間関係の発達 (2) アタッチメントの個人差	教科書4章の復習の準備	復習ワーク①への準備	
第7回	言語の発達 (1) ことばが芽生えるまで	教科書5章の復習の準備	復習ワーク②への準備	
第8回	言語の発達 (2) 幼児期の言語発達	教科書5章の復習の準備	復習ワーク②への準備	
第9回	遊びの発達	教科書5章の復習の準備	復習ワーク②への準備	
第10回	自己の発達	教科書6章の復習の準備	復習ワーク②への準備	
第11回	感情の発達	教科書7章の復習の準備	復習ワーク③への準備	
第12回	仲間関係・社会性の発達	教科書7章の復習の準備	復習ワーク③への準備	
第13回	児童期の思考の発達 学校での学び	教科書8章の復習の準備	復習ワーク③への準備	
第14回	非定型発達への理解	教科書8章の復習の準備	期末試験への準備	
第15回	まとめワーク	授業全体の復習・まとめワークへの準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	-			
小テスト等	毎回の課題提出30% 復習ワーク(3回)30% まとめワーク40%			
成果発表	-			
受講態度他	毎回の課題、復習ワーク、まとめワークを期日までに提出すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	オンデマンド型で授業を行います。筑女ネットを必ず確認してください。			
教科書	坂上裕子他著 『問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学』 有斐閣			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に紹介する			
オフィスアワー	前期 月曜日 昼休み・5講目	メールアドレス		

授業科目	発達心理学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	板井 修一		単位	2
授業の目的と概要	この科目は、基礎科目のうち人間理解に関する科目である。学部における4年間の学びや研究に必要な理論・技法を身につけ、そのうえでひとの心の発達とはどういうことを理解するための科目である。思春期と青年期は、人の一生のなかでも、身体的・精神的に大きな成長、変化を体験する時期でもある。青年期は疾風怒濤の時代と表現されることもあるように、精神的に不安定になる危険性を孕んでいるが、アイデンティティの獲得が発達課題ともなる重要な時期でもある。その後の成人期は、仕事や子育てに没頭する時期でもあるが、中年期には心の揺らぎが生ずる危機を孕んだ時期でもある。老年期は人生の完結期とも言われるが、さまざまな心の拠り所としていたものを失う、喪失を体験する危機の時でもあります。授業は、各発達段階の特徴について、理解し説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各発達段階の特性を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 各発達段階における発達課題について、的確に説明することができる。</li> <li>3. 各発達段階における適応上のつまずきと病気について、説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：発達心理学Ⅰ</p> <p>この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	思春期の特性、第二次性徴と身体的発達	自分の思春期体験について振り返りまとめる		
第2回	思春期の心理と危機	自分の思春期を振り返り、親や大人との関係について分析・整理		
第3回	青年期の特色	「アイデンティティ」とは何かについて調べる		
第4回	青年期の心理特性（1）青年中期	アイデンティティ獲得をテーマとした映画を視聴		
第5回	青年期の心理特性（2）青年後期	視聴した映画について内容を分析・整理		
第6回	青年期の発達課題	自分のアイデンティティ確立のプロセスと現状について点検しまとめる		
第7回	成人期の特色	成人期に関係した配布資料を読む		
第8回	成人期の心理と中年の危機	中年世代の心理的危機について、さまざまな情報源から実例を探す		
第9回	成人期の発達課題	親の生き方から、成人期の発達課題を点検・整理する		
第10回	老年期の特色	老年期に関連する配布資料を読む		
第11回	老化に伴う身体的変化	老化に伴う身体的変化とエイジズムについて調べる		
第12回	老年期の心理	高齢者の自殺の実態について、新聞や雑誌をもとに調べる		
第13回	老年期の発達課題	高齢者の生き甲斐について、新聞や雑誌をもとに調べる		
第14回	ターミナル期の心理的課題	ターミナルケアの実態について、新聞や雑誌をもとに調べる		
第15回	総括	総括で話した、授業内容のポイントについて復習する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	40% [(期日内提出5点+内容5点)×4回=40点] 課題の内容は、①思春期に関するもの ②青年期に関するもの ③成人期に関するもの ④老年期に関するもの の4つである。小レポートは、提出後2週間後を目処に、採点をして返却する。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、ノートにきちんとまとめること。4つの発達段階ごとに、まとめの小テストを実施する。授業外学習として出された課題は、各自ファイルを作成し整理をする。毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。			
教科書	なし 毎回、レジュメを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて随時紹介をする。			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	仏教福祉【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴・盛 智照		単位	2
授業の目的と概要	この講義では、仏教者の社会的活動の歴史を概観し、日本社会における社会的弱者の生活実態の把握に努めるとともに、仏教が本来救済活動をどのようなものとみなすべきであったのかを考えてみたい。			
到達目標	1. 古代から現代に至る各時代において、社会的弱者がどのような状況に置かれ、いかに生きてきたかを述べることができる。 2. それぞれの時代のなかで、社会的弱者の救済のために仏教者がどのような社会的活動を行ってきたのかを説明することができる。 3. 仏教者の社会的活動が日本社会に果たしてきた役割とその課題について、自分の意見を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 心 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 心 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。  ＜授業外学修＞1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	感想カードを提出		
第2回	仏教福祉を学ぶことの意義	感想カードを提出		
第3回	仏教と福祉はどう結びつくのか	感想カードを提出		
第4回	親鸞の思想と福祉の関係性について	感想カードを提出		
第5回	現代社会の抱える課題と仏教Ⅰ	感想カードを提出		
第6回	現代社会の抱える課題と仏教Ⅱ	感想カードを提出		
第7回	平安時代における穢れの意識の展開	感想カードを提出		
第8回	中世被差別民の形成と仏教	感想カードを提出		
第9回	鎌倉仏教と救済事業	感想カードを提出		
第10回	幕藩体制下での仏教救済事業	感想カードを提出		
第11回	明治維新と仏教側の対応	感想カードを提出		
第12回	仏教慈善事業の一環としての仏教保育事業	感想カードを提出		
第13回	戦時厚生事業と仏教	感想カードを提出		
第14回	戦後社会福祉の展開と仏教	感想カードを提出		
第15回	まとめ	感想カードを提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ 講義中に提出のレポートで評価します。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ 受講態度から総合的に判断します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義で配布するプリントや、講義中に使用した用語などで分からないことは辞書で調べる努力をしてください。			
教科書	適宜プリント配布			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

<b>授業科目</b>	保育・教職実践演習(幼稚園)【演習】		<b>開講時期</b>	後期
<b>担当教員</b>	原田(博)・山本(尚)・岡山(万)		<b>単位</b>	2
<b>授業の目的と概要</b>	これまでの授業や実習を通して学んできた、保育者となるために必要な能力を再認識し、専門職として必要な実践力を向上させることを目的とする。 幼児教育・保育に関し、子ども理解、要領・指針が示す5領域等、子育て支援、安全管理、保幼小連携等を総合的に理解する。理論的な内容理解を踏まえた上で、実際に幼児教育・保育の指導・保育計画を立案し、実践する。実践をグループディスカッションやプレゼンテーションを通し振り返り、自身の幼児教育・保育を考察する力を習得する。幼稚園教諭免許・保育士資格取得課程における、4年間の学びの軌跡の集大成として位置づける科目である。			
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針等が示す5領域等の内容を、自分の言葉で説明することができる。</li> <li>2. 遊びの展開やねらいを、5領域等を踏まえて立案し、検討することができる。</li> <li>3. グループディスカッションを通し、グループごとに計画した遊びを子ども達に対し実際に展開することができる。</li> <li>4. グループで取り組んだ幼児教育・保育実践を省察し、グループ内で意見を述べることができる。</li> <li>5. 幼児教育・保育実践を省察・課題とともに、プレゼンテーションし、多様な意見を踏まえ、自身の課題を導くことができる。</li> </ol>			
<b>この授業が目的としているDPや関連する科目など</b>	幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼(4)-①-① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 担当教員の中には看護・助産師としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
<b>授業計画</b>	<b>授業内容</b>	<b>授業外学修など</b>		
第1回	オリエンテーション、実践実習の概要説明、指導案作成	実践実習に向けた役割分担を検討し、指導案を作成しておく。		
第2回	指導案の内容チェック、プレゼンテーション準備	指導案の内容をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。		
第3回	指導案プレゼンテーション	プレゼンテーションの質疑を受け、指導案を修正する。		
第4回	実践実習に向けた直前指導	実践実習に向けた必要物の準備を進めておく。		
第5回	実践実習① ー子どもとの関わりー	実践実習を踏まえ感想用紙を記入する。		
第6回	実践実習② ークラス全体との関わりー	実践実習を踏まえ、感想用紙を記入する。		
第7回	実習実習③ ー設定保育の実践ー	実践実習を踏まえ、感想用紙を記入する。		
第8回	実践実習④ ー設定保育の自己省察ー	設定保育を踏まえ、振り返りシートに自己省察内容を記入する。		
第9回	実践実習⑤ ー指導案・設定保育の振り返り指導ー	附属幼稚園の先生からの意見を踏まえ、課題をまとめておく。		
第10回	映像による実践実習の振り返り、プレゼンテーション準備	自分の姿を映像で確認し、省察を基にプレゼンテーション資料を作る。		
第11回	実践実習の振り返りプレゼンテーション	各グループのプレゼンテーションを踏まえ、自身の課題をまとめる。		
第12回	KJ法による学びの振り返り、グループ検討	4年間の自身の成長や課題についてまとめて、発表準備を整える。		
第13回	KJ法内容の発表	自他グループの発表を踏まえ、保育者としての自身の成長と課題をまとめる。		
第14回	4年間の実習を通した学びの伝達	2年生に対して、実習を通して得た学びを説明できるようまとめておく。		
第15回	まとめ	学びを振り返り、保育場面を捉えた「おたより」を作成する。		
<b>成績評価</b>	<b>割合(%)、種類・評価基準など</b>			
定期試験	なし			
レポート	40% 保育者としての自己課題と課題解決に向けた取り組みについて、レポート課題を出す。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 指導・保育計画の立案と実践への取り組み及びその内容 20% 実践の振り返り、プレゼンテーション、議論への取り組み及びその内容			
受講態度他	20% 授業への取り組みの姿勢、議論における質疑等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	実際に附属幼稚園の子ども達に対し遊びを展開する。各自が責任感と免許・資格取得の自覚をもって、グループ活動や個人の課題に取り組むこと。 授業日程や必要書類等、筑女ネットを活用し、連絡をする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	各教員の他科目のシラバスを参照	

<b>授業科目</b>	保育原理【講義】		<b>開講時期</b>	前期
<b>担当教員</b>	原 陽一郎		<b>単位</b>	2
<b>授業の目的と概要</b>	<p>保育とは何かについて考察し、理解を深める。さらに、保育者、あるいは子どもに関わる者として必要な保育についての基本的な視点や姿勢を身につけることを目的とする。</p> <p>授業では、家庭や社会の変容から現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設についての意義と目的について考える。「子ども・子育て関連3法」による保育制度及び幼稚園教育要領、保育所保育指針等について理解し、これからの保育、就学前教育について考察する。また、子どもの発達にとっての集団や活動・遊びの重要性についてもふれながら、子ども観や発達観を検討する。さらに、先人達の保育思想や構想した保育施設等を概観することによって、時代や国を越えて現代にも生かすべき子ども観や保育観などについて理解を深めていく。最後に、授業での学びから、わが国の保育・就学前教育の課題について、自分の言葉で説明できるようになる。</p>			
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設の特徴を的確に説明することができる。</li> <li>2. 制度としての保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園の目的や役割について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて的確に説明することができる。</li> <li>3. 保育の内容と方法の基本について説明することができる。</li> <li>4. 「子ども・子育て関連3法」にもとづく新制度の特徴を説明することができる。</li> <li>5. 保育の思想とそれに伴う保育施設の歴史的変遷を理解し、説明することができる。</li> <li>6. 現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等保育施設の課題について、自分の意見を述べることができる。</li> </ol>			
<b>この授業が目的として関与するDPや関連する科目など</b>	<p>心 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。</p> <p>福 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。</p> <p>初 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
<b>授業計画</b>	<b>授業内容</b>	<b>授業外学修など</b>		
第1回	保育とは何か～理念と概念について	教科書第1章を読む。講義を元に現在の自分の保育についての考えを整理する		
第2回	保育の歴史に学ぶ①ルソー、フレーベル、ロバート・オーエン	教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。		
第3回	保育の歴史に学ぶ②日本の保育の歴史	教科書第9章の該当箇所を読んで整理する。		
第4回	子ども理解と保育①「子ども」とはどんな存在か	教科書第2章を読む。		
第5回	子ども理解と保育②現在の子どもの育ちの問題点	教科書第2章および資料を読んで整理する。		
第6回	保育の方法①生活と遊びを通して行うとは	教科書第4章を読む。		
第7回	保育の方法②遊びとは何か	教科書第4章をまとめる。		
第8回	保育の内容① 養護とは何か	教科書第3章を読む。		
第9回	保育の内容② 5領域の考え方	教科書第3章をまとめる		
第10回	保育の計画と評価	教科書第5章を読む。		
第11回	多様な子どもの理解と保育	教科書第10章を読む。		
	保育に関わる法律と制度① 学教教育法、児童福祉法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律	教科書第12章を読む		
	保育に関わる法律と制度② 幼稚園設置基準、児童福祉施設の設置及び運営に関する基準、幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準	保育資料集からまとめる		
	保育者の専門性と資質向上	教科書第8章を読む		
	保育とは何か・再考	保育について考えがどのように変化してきたかについてまとめる		
<b>成績評価</b>	<b>割合（％）、種類・評価基準など</b>			
定期試験	60％ 期末テスト 基本的事項についての知識を問う			
レポート	30％ 保育とは何か 講義受講前と受講後の変化について考える			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％ 意見発表等をもとに講義に対する参加意欲を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はシラバスの予定に沿って行う。教科書通りではないが、関連の章は記載しているので、教科書は授業前に読んでおくこと</li> <li>・社会情勢や制度変更等により、授業計画を変更する場合がある。その都度伝達したうえで授業の予定を変更する。</li> <li>・授業中、随時質問するので、主体的授業参加をすること。</li> </ul>			
<b>教科書</b>	汐見稔幸・無藤隆・大豆生田啓友(2019) 「アクティベート保育学①保育原理」 ミネルヴァ書房 保育福祉小六法編集委員会(編集) 「保育福祉小六法 2019年版保育福祉小六法」 みらい			
<b>指定図書</b>	宍戸健夫(1988) 「日本の幼児保育一昭和保育思想史〈上〉〈下〉(青木教育叢書)」 青木書店			
<b>参考図書</b>	清水陽子・門田理世・牧野桂一・松井尚子編(2017) 「保育の理論と実践」 ミネルヴァ書房			
<b>オフィスアワー</b>	火曜日5限	<b>メールアドレス</b>		

授業科目	保育実習Ⅰ【実習】		開講時期	通年
担当教員	今釜 亮・原田 博子		単位	4
授業の目的と概要	<p>保育実習は、これまで大学において学習してきた心理学、教育学、保育、福祉、保健、保育内容等の専門科目・教養科目等の理論を基礎として、保育の実際にあたり、指導技術を実践する。それによって、理論と実践の統合をはかり、専門的知識・技術および豊かな人間性をかねそなえた保育士を育成することを目的とする。</p> <p>保育実習Ⅰでは、保育所実習において、保育所生活に参加し、乳幼児への理解を深める。それとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務及び他の職員との連携について学ぶ。施設実習においては、居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深める。それとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務及び他の職員との連携について学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習保育所、施設の日課と職員を理解する。</li> <li>2. 保育所の乳幼児や児童福祉施設利用者、職員に積極的に関わることができる。</li> <li>3. 実習生としての謙虚さと積極性を持ち、状況にふさわしい言動を取ることができる。</li> <li>4. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、今後の課題を明確にすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼(3)-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」  幼(3)-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>担当教員の中には看護・助産師としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	保育所での実習についての事前指導：学内オリエンテーション	課題：実習準備、実習生調書、保育実習計画書		
第2回	保育所での実習についての事前指導：実習施設	課題：実習準備		
第3回	保育所での実習についての事前指導：学内最終オリエンテーション	課題：実習準備		
第4回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第5回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第6回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第7回	事後指導：実習保育所内での反省会	課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」		
第8回	事後指導：大学内での総括と今後の課題	課題：お礼状、反省と次の実習にむけての課題		
第9回	居住型児童福祉施設での実習についての事前指導：学内オリエンテーション	課題：実習準備、実習生調書、保育実習計画書		
第10回	居住型児童福祉施設での実習についての事前指導：学内直前オリエンテーション	課題：実習準備		
第11回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第12回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第13回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第14回	事後指導：実習保育所内での反省会	課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」		
第15回	事後指導：大学内での総括と今後の課題	課題：お礼状、反省と次期実習にむけての課題		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 実習生調書・実習計画書などの事前提出物（20%）、実習報告書・実習園レポート・実習日誌などの事後提出物（30%）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 実習評価（50%）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>保育所と児童福祉施設の両方での実習を行わなければならない。  提出物の期日を厳守、無断欠席、遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底</p>			
教科書	なし			
指定図書	厚生労働省（編）『保育所保育指針 解説書』 フレーベル館 2018年			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日3限（今釜）	メールアドレス		

授業科目	保育実習指導Ⅱ【演習】		開講時期	後期
担当教員	原田 博子・古賀野 卓・今里 順一・牛島 豊広		単位	1
授業の目的と概要	<p>保育実習指導Ⅰの内容を受け、実習の反省、評価、総括を行う。その上で、保育実習Ⅱ（保育所）および保育実習Ⅲにむけて、保育実習Ⅰで生じた課題をさらに明確化し、自らの課題設定のもとに知識・技術の修得等を深め、将来の保育士としての実践的力を高めていくことを目的とする。</p> <p>実習振り返りや記録、指導案の相互検討など受講生の主体的かつ協同の学修を行う。つねに主体的に授業に取り組むことが期待される。</p> <p>本授業の他に学内での実習オリエンテーション、各保育実習先において事前指導等が実施される。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にむけての課題、計画、準備を主体的に取り組むことができる。</li> <li>2. 健康管理、挨拶、返事、言葉遣い、姿勢等実習生としての基本を確実に身につける。</li> <li>3. 自分の実践をふりかえり課題を明確にし、自ら取り組む。</li> <li>4. 保育実習で適切な配慮を行うことができるように、子どものことばや行動を理解し意味づけることができる。</li> <li>5. 活動指導案の作成、教材研究について習熟し、指導案作成と実践をすることができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」  幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき45分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>担当教員の中には看護・助産師としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業概要および保育実習Ⅰの振り返りを踏まえて保育実習Ⅱ・Ⅲの実習計画	授業での課題：各自の実習課題設定および実習計画書作成		
第2回	様々な現場の保育士/保育実習Ⅱ・Ⅲにむけて実習計画書作成	授業での課題：実習施設の事前学習及び指導案作成		
第3回	キャリアアップした保育士/実習施設の特徴と役割	授業での課題：実習にむけての教材研究及び指導案作成		
第4回	指導案指導（添削及び再指導）	授業での課題：実習にむけての教材研究		
第5回	記録および実習日誌について（考察部分の考え方）	授業での課題：保育実習Ⅰの日誌を読み返す		
第6回	記録および実習日誌について（要点を押さえた書き方）	授業での課題：保育実習Ⅰの日誌を読み返す		
第7回	実習に向けての留意事項	授業での課題：実習に向けての準備、確認		
第8回	直前オリエンテーション	授業での課題：実習に向けての準備、確認		
第9回	実習事後指導①実習の総括と評価 自己評価	授業での課題：実習の振り返り及び保育士に必要なことを考える		
第10回	「私の保育」保育士に必要なこと（グループワーク KJ法）①	授業での課題：授業内で完了しなかった部分をグループワークする		
第11回	「私の保育」保育士に必要なこと（グループワーク KJ法）② 発表	授業での課題：他者の意見を踏まえながら保育とはを考える		
第12回	「私の保育」発表①	授業での課題：プレゼンテーションの準備（レジュメ・リハーサルなど）		
第13回	「私の保育」発表②	授業での課題：プレゼンテーションの準備（レジュメ・リハーサルなど）		
第14回	「私の保育」発表③	授業での課題：プレゼンテーションの準備（レジュメ・リハーサルなど）		
第15回	「私の保育」発表④及びまとめ（保育士としての自己課題の明確化）	授業での課題：自己の課題についての検討		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％（実習計画書・指導案・感想用紙2枚・実習報告書・園レポート 各10％）			
小テスト等	なし			
成果発表	10％（KJ法発表）10％（「私の保育」発表）			
受講態度他	20％（積極的参加・他者の意見を聞く姿勢・積極的質問などを含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>主体的な授業への参加と課題意識を持つことを期待します。</p> <p>保育実習Ⅱ・Ⅲの実習科目ですので、原則として無断欠席、遅刻、早退は認められません。状況によっては特別に課題を付加することもあります。</p> <p>上記の授業計画は開講中にも変更することがあります。</p> <p>授業外に開催する実習オリエンテーションにも必ず参加すること。その際、所定の服装、身だしなみに注意すること。</p>			
教科書	保育実習指導Ⅰのテキスト			
指定図書	財団法人幼少年教育研究所（編著） 『遊びの指導 乳・幼児編』 同文書院 2009年			
参考図書	授業で紹介する。			
オフィスアワー	実習指導担当教員 原田 月曜日4限目	メールアドレス		

<b>授業科目</b>	保育相談支援【講義】		<b>開講時期</b>	前期
<b>担当教員</b>	原 陽一郎		<b>単位</b>	2
<b>授業の目的と概要</b>	この科目は保育士資格取得のための必修科目であり、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して保育相談、助言ができるようになることを目的とする。 このために、現代の保護者・育児をとりまく状況の理解とともに、保育相談支援の意義・基本と、事例を通して実践のための自己の課題を把握していく。			
<b>到達目標</b>	① 保育相談支援の意義や基本的視点について理解する ② 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する ③ 保護者支援の基本を理解する ④ 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する			
<b>この授業が目的としているDPや関連する科目など</b>	幼(3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
<b>授業計画</b>	<b>授業内容</b>		<b>授業外学修など</b>	
第1回	オリエンテーション 保育相談支援の意義と基本視点 保育相談支援とは何か		ふだんの生活や実習で見かけた親子関係をまとめる	
第2回	保育士の業務と保育相談支援の原理		教科書第1章p. 1～19を読む	
第3回	保育相談支援の価値と倫理		全国保育士会倫理綱領を読む	
第4回	信頼関係を築く受容と自己決定、相談の実際事例		信頼関係の捉え方を理解する・ラポールについて考察する	
第5回	子どもの最善の利益の重視 子どもの成長の喜びの共有、相談の実際事例		子どもの権利条約を読む	
第6回	社会資源との連携・協力、相談の実際事例		連携・協力の対象となる地域資源や関係機関を復習する	
第7回	保育を基盤とした保育相談支援、相談の実際事例		保護者の気になる姿をまとめる	
第8回	保育相談支援の方法と技術、相談の実際事例		保育相談支援で必要とされる保育技術についてまとめる	
第9回	保育相談支援の展開、相談の実際事例		援助行為の道筋を復習する	
第10回	保育所における保育相談支援、相談の実際事例		これまでまとめた事例の支援の方法を検討する	
第11回	地域子育て支援における保育相談支援、相談の実際事例		子育てサロン、子育て支援センターなどの役割を復習する	
第12回	児童福祉施設における保育相談支援、相談の実際事例		児童福祉施設の目的と利用者の状況について復習する	
第13回	子どもの虐待について、相談の実際事例		虐待が起きる要因について復習する	
第14回	子育て相談のポイント		現在の保護者の状況について、新聞などの記事を集める	
第15回	保育相談支援の評価		保育要録について復習する	
<b>成績評価</b>	<b>割合（％）、種類・評価基準など</b>			
定期試験	60％ 基本的事項について			
レポート	30％ 事例レポートの作成			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％ 挙手・発表などの受講態度を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来、保護者・児童の指導者となるにふさわしい履修態度を求める			
<b>教科書</b>	柏女壺峰・橋本真紀 「保育相談支援（新・プリマーズ 保育）」 ミネルヴァ書房(2016)			
<b>指定図書</b>	なし			
<b>参考図書</b>	大谷保育協会 「ほいくしんり」 エイデル研究所(2010～)			
<b>オフィスアワー</b>	水曜日 2限目	<b>メールアドレス</b>		

<b>授業科目</b>	保育内容演習（環境）【演習】		<b>開講時期</b>	後期
<b>担当教員</b>	原 陽一郎		<b>単 位</b>	2
<b>授業の目的と概要</b>	<p>保育内容の領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことが目標である。その基盤として、乳幼児期の教育は保育者が「自発的、意欲的に関われるような環境を構成」することによって「生活と遊びを通して総合的に」おこなう必要がある。よって本講義では、領域「環境」の教育目標達成のための「環境の構成力」を獲得するために、物的環境・人的環境・社会及び自然の事象についての理解を深めることを目的とする。</p>			
<b>到達目標</b>	<p>①周囲のさまざまな環境に興味を持ったことを実験・観察し、その面白さを具体的に説明する。  ②子どもの育ちにとって適切な環境を考える基礎とその理由を具体的に説明する。  ③保育計画を作成する。</p>			
<b>この授業が目的としているDPや関連する科目など</b>	<p>初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。  &lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。  この科目は保育士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
<b>授業計画</b>	<b>授 業 内 容</b>	<b>授 業 外 学 修 等</b>		
第1回	領域「環境」のねらいと内容	要領・指針の領域「環境」の項目を読む		
第2回	領域「環境」の指導上の留意点	要領・指針の領域「環境」の指導上の留意点についてまとめる		
第3回	領域「環境」の保育実践の動向	上記要領・指針を読み、領域「環境」について理解する		
第4回	領域「環境」の実践のために① 周囲環境での「面白さ」を見つける	実験・観察する事象を決め、これらについての資料を集めておく		
第5回	領域「環境」の実践のために② 「面白さ」の内容を明らかにする	実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する		
第6回	領域「環境」の実践のために③ 「面白さ」を多面的に把握する	実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する		
第7回	情報機器の活用法 体験を補完する	体験を補完するものとしての情報機器の活用法について理解する		
第8回	保育計画の作成① 3歳未満児	3歳未満児の保育内容を検討して保育計画案を作成する		
第9回	保育計画の作成② 3歳児	3歳児の保育内容を検討して保育計画案を作成する		
第10回	保育計画の作成③ 4歳児	4歳児の保育内容を検討して保育計画案を作成する		
第11回	保育計画の作成④ 5歳児	5歳児の保育内容を検討して保育計画案を作成する		
第12回	模擬保育① 3歳未満児、3歳児	模擬保育を実践し、そのふり返りを通して改善点を考える		
第13回	模擬保育② 4歳児、5歳児	模擬保育を実践し、そのふり返りを通して改善点を考える		
第14回	小学校教科とのつながり① 生活科との関連	生活科の学習指導要領を読む		
第15回	小学校教科とのつながり② 理科との関連	理科の学習指導要領を読む		
<b>成績評価</b>	<b>割合（％）、種類・評価基準など</b>			
定期試験	40％ 基本的項目についての理解を問う			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ ①興味を持った事象のプレゼン 30％ ②保育計画案の提出 20％			
受講態度他	10％ 講義で提起した各種体験の課題などの遂行状況、意見発表など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	興味を持った事象については資料をプレゼンが必要となるので、丁寧に準備すること。指導案は、そこで興味を持ったものから作成しても構わない。			
<b>教科書</b>	神長美津子・掘越紀香・佐々木見編著 「保育内容 環境」 光生館（2018）			
<b>指定図書</b>	小泉英明・秋田喜代美・山田俊之『幼児期に育つ「科学する心」』 小学館（2007）			
<b>参考図書</b>	戸田拓夫 「おり紙ヒコーキ大集合BOOK」 いかだ社（2014）			
<b>オフィスアワー</b>	月曜日2限	<b>メールアドレス</b>		

<b>授業科目</b>	保育内容総論【演習】		<b>開講時期</b>	前期
<b>担当教員</b>	原 陽一郎		<b>単 位</b>	2
<b>授業の目的と概要</b>	本講義では、幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の「保育目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連づけ、保育の全体的な構造を理解することが目的である。また、保育の基本は「生活」や「遊び」であることを、体験を通して認識し、深めていく。			
<b>到達目標</b>	①保育の全体構造と保育内容5領域との関係を説明できる。 ②幼稚園教育、保育所保育の歴史の変遷から、現在実施されている保育の多様性の理由と問題点を具体的に述べる。 ③「遊び」の重要性を説明できる。			
<b>この授業が目的としているDPや関連する科目など</b>	初 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 初 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 初 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 <授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。 担当教員の中には保育士としての実務経験のある者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
<b>授業計画</b>	<b>授 業 内 容</b>	<b>授 業 外 学 修 等</b>		
第1回	幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方	要領・指針の総則を読む		
第2回	保育所保育指針における保育内容のとらえ方	要領・指針の総則のポイントを理解する		
第3回	認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方③	要領・指針の第2章を読む		
第4回	子どもの認識や思考、動きを理解する① 鬼ごっこなど	遊びを通して鬼ごっこで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第5回	子どもの認識や思考、動きを理解する② 伝承遊び	遊びを通して伝承遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第6回	子どもの認識や思考、動きを理解する③チャンバラ、コーン倒しなど攻撃的集団あそびの重要性について	攻撃性を合法的に発散する遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる		
第7回	教材から生活力を育てる① 三つ編み縄跳びづくり	布の特性などを知ることなど教材から生活力を高める方法を考えてまとめる。		
第8回	教材から生活力を育てる② 雑巾縫い	生活の意識を高めるための教材としての活用法について考え、まとめる		
第9回	情報機器の活用法と課題	配付された資料を読み、情報機器の活用法と課題についてまとめる		
第10回	保育実践の動向① 3歳未満児	要領・指針の2017年改訂の内容についてまとめる		
第11回	保育実践の動向② 環境設定を重視した保育の留意点	どのような形態の保育があるのか、調べておくこと		
第12回	保育実践の動向③ 長時間保育	長時間保育について配付された資料を読む		
第13回	保育実践の動向④ 特別支援教育	特別支援教育について配付された資料を読む		
第14回	保育を評価する方法について	要領・指針の保育の評価の項目を読む		
第15回	小学校教科とのつながり	学習指導要領を読む		
<b>成績評価</b>	<b>割合（％）、種類・評価基準など</b>			
定期試験	50％ 基本的事項について			
レポート	20％ 各講義内容についてのまとめ			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 製作物の提出・課題の達成度			
受講態度他	10％ 意見発表などの受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	とくに、遊びや生活についての講義には積極的な態度で参加すること。			
<b>教科書</b>	清水陽子・森真理編著 「共に育つ保育を探究する保育内容総論」 建帛社 2019			
<b>指定図書</b>	なし			
<b>参考図書</b>	幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院（2009）			
<b>オフィスアワー</b>	木曜日1限目	<b>メールアドレス</b>		

授業科目	法律学(国際法を含む)【講義】		開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	1. 法とは何か、法の基礎知識を学び、私たちの生活と法律のかかわりについて考える。 2. 「六法」といわれる法律と労働法、社会保障法について概要を理解する。 3. 国際法について概観する。			
到達目標	1. 憲法、行政法、民法、商法、刑法、訴訟法、労働法、社会保障法の趣旨目的について説明できる。 2. 国際法で登場する専門用語のうち基礎的なものについて正しく説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	ア(3)-②-2 アジアの諸地域の社会事情について、その特徴と課題を説明することができる。 心(1)-① 自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 心(3)-②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 福(3)-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初(3)-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼(2)-④ 社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 幼(2)-⑤ 人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼(3)-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会において法が果たしている役割	配付資料を見直して復習する。		
第2回	裁判による権利実現・被害回復とは	配付資料を見直して復習する。		
第3回	刑法	配付資料を見直して復習する。		
第4回	刑事訴訟法	配付資料を見直して復習する。		
第5回	民法①(財産法)	配付資料を見直して復習する。		
第6回	民法②(家族法)	配付資料を見直して復習する。		
第7回	商法	配付資料を見直して復習する。		
第8回	憲法	配付資料を見直して復習する。		
第9回	労働法	配付資料を見直して復習する。		
第10回	社会保障法	配付資料を見直して復習する。		
第11回	国際法(国際法はどのような形で存在するか)	配付資料を見直して復習する。		
第12回	国際法(国際紛争の解決)	配付資料を見直して復習する。		
第13回	国際法(国家管轄権)	配付資料を見直して復習する。		
第14回	国際法(国際人権法)	配付資料を見直して復習する。		
第15回	国際法(戦争と国際法)	配付資料を見直して復習する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	あり(100%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	なし(資料を配付します)			
指定図書	①谷口貴都・松原哲編著『基礎からわかる法学[第2版]』成文堂、②渡部茂己・喜多義人編『国際法[第2版]』弘文堂			
参考図書	講義の際に指示します。			
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス		

授業科目	臨床心理学概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	板井 修一		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、人間科学部でこれから学ぶ、「人間理解」と「人間支援」に関わるさまざまな科目の基礎となる臨床心理学を学びます(基礎科目)。人の心の働きと支援のための方法について、重要な視点や知識を、臨床心理学という学問を通して学ぶ授業です。臨床心理学の基本的概念や理論について理解し、正しく説明できるようになることを目的とします。臨床心理学は、生きた人間の心に直接触れ、アプローチしながら形作られてきた学問領域です。そのために、臨床心理学は、他の学問領域とは異なり、独自の人間理解の視点や発想が生み出されて来ました。授業を通して、他の学問領域とは違う臨床心理学の独自性を理解し、その視点を身につけることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学独自の人間理解の視点について説明できるようになる。</li> <li>2. 臨床心理学の成り立ちについて説明することができるようになる。</li> <li>3. 人間理解の方法としての心理アセスメントの意義について説明することができるようになる。</li> <li>4. さまざまなこころの病について、その原因や具体的な症状について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>心 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>心 (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。</p> <p>心 福 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>初 幼 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>幼 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。</p> <p>&lt;授業外学修&gt;1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。          関連する科目：カウンセリング概論、心理アセスメントⅠ・Ⅱ、人本心理学、健康・医療心理学</p>			
授業計画	この科目は障がい児福祉・心理相談の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」		記載どおりの実践的教育を行います。	
第1回	臨床心理学とは何か1：臨床心理学の理念・全体構造 臨床心理学の独自性、問題を抱えつつ生きることの援助		「医学モデル」と「成熟モデル」の違いについて整理する	
第2回	臨床心理学とは何か2：臨床心理学の実践と研究 他職種とのコラボレーションの重要性、実践活動の有効性を裏付ける科学的研究の意義		「コラボレーション」の意味と意義について整理する 小レポート①をまとめる	
第3回	臨床心理学とは何か3：臨床心理学の歴史 精神分析学、行動療法、カウンセリング		最近見た夢を記録し、夢の意味するものについて考える	
第4回	アセスメント1：アセスメントとは何か 診断とアセスメントの違い、アセスメントの手続き		診断とアセスメントの意味の違いについて調べる	
第5回	アセスメント2：検査法(質問紙法、投影法、知能検査、神経学的検査) 質問紙法によるパーソナリティアセスメントの体験的理解		授業で体験した心理テスト結果を分析・解釈し報告書作成	
第6回	アセスメント3：観察法・行動分析・生態学的アプローチ・初回面接 観察法によるアセスメントの体験的理解		小レポート②(講義の第3回～第6回の内容に関する課題)をまとめる	
第7回	異常心理学1：異常心理学とは何か・精神症状の分類 正常と異常の多元性、心理的機能障害としての各種精神症状		正常と異常の判断基準について復習する	
第8回	異常心理学2：統合失調症 統合失調症の臨床症状、類型、心理的援助		統合失調症の症状について調べる	
第9回	異常心理学3：気分障害・不安障害 うつ病の臨床症状、気分障害の治療と心理援助のポイント		うつ病の症状について調べる	
第10回	異常心理学4：身体表現性障害と解離性障害 身体表現性障害と解離性障害の臨床症状、類型、心理的援助のポイント		心身症の種類と症状について調べる	
第11回	異常心理学5：性同一性障害・摂食障害・人格障害 臨床症状と援助のポイント		小レポート③(講義の第7回～第11回の内容に関する課題)をまとめる	
第12回	発達臨床心理学1：乳幼児期の心理的問題 乳幼児期の発達課題、知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥/多動性障害、虐待		ADHDとアスペルガー症候群について調べる	
第13回	発達臨床心理学2：児童期・思春期・青年期の心理的問題 児童期・青年期の発達課題、不登校、いじめ、アイデンティティ獲得をめぐるさまざまな		児童期・青年期の発達課題について調べる	
第14回	発達臨床心理学3：中年期・老年期の心理的問題 中年期・老年期の発達課題、中年期の心理的問題、老年期の心理的問題		小レポート④(講義の第12回～第14回の内容に関する課題)をまとめる	
第15回	総括 これまでの講義の重要ポイントのまとめ		配布資料、ノート、返却された小レポートの整理	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験(60点満点)			
レポート	40% 4回的小レポート [(期日内提出5点+内容5点)×4回=40点] 小レポートは提出後、2週間後を目処に、採点した結果を返却する。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語や離席については、適宜、注意をいたします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習内容が多いので、講義内容をしっかり聞いて下さい。配布されるプリントに書き込んだり、ノートをきちんとまとめることも大切です。漫然と講義を聞くのではなく、講義内容を自己の体験や観察と照らし合わせながら受講して下さい。毎回の授業で学んだことの振り返りと考えたことを記録する「リフレクション・シート」を、授業の終わりに記入し提出をする。次の講義の初めにチェックした「リフレクション・シート」を返却する。「リフレクション・シート」の提出、返却により、講義への出席と欠席、遅刻の実態を把握する。			
教科書	なし 毎回レジュメを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	河合隼雄『カウンセリングの実際問題』誠信書房 河合隼雄『心理療法学』岩波書店			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		